

キューバに行きたい旅行者は、アメリカ経由では直接行けない事から、カナダやメキシコ、他のカリブの国を経由するか、もしくはエクアドルなどの南米経由で入る事になる。

私の場合は航空券が安そうだという理由でメキシコ経由を選んだのだった(これは全くの誤解だったけど...).

しかしもう一つ理由がある。それはピラミッド。

この歳になるまで、メキシコにピラミッドがある事を知らなかった。先輩から、『メキシコのピラミッドもなかなかいいよ』と聞いた時には冗談かと思ったほど。

最近、太陽電池メーカーのコマーシャルで、テオティワカンというそのピラミッドが出ているので、日本でも認知されて来ているそう。

秋にはヨーロッパから日本へ戻る途中でエジプトのピラミッドを見る予定の私としても、やはり見逃す訳にはいかない。



ってなことで、その太陽の国、メキシコにやってきた。

- 1.人口：1億320万人(2002年国勢調査)
- 2.面積：197万平方キロ(日本の5.3倍)
- 3.首都：メキシコ・シティー
- 4.人種：ヨーロッパ系(スペイン系等)(15%)、ヨーロッパ系と先住民の混血(60%)、先住民(25%)
- 5.言語：スペイン語
- 6.宗教：カトリック(国民の約9割)
- 7.略史：1519年 エルナン・コルテスの率いるスペイン人が侵入
1821年 スペインより独立
1846年 米墨戦争(~48。国土の半分近くを米国に割譲)
1910年 メキシコ革命勃発
1938年 石油産業の国有化
1982年 債務危機発生
1994年 北米自由貿易協定(NAFTA)発効、OECD加盟、通貨危機発生
2000年 フォックス大統領就任



メキシコシティーの空港はとても人が多く、巨大都市である事を感じさせる。

イミグレもめっちゃめっちゃ混んでいた。メキシコ人はあつという間だが、外国人は長蛇の列。くねくねと300メートルくらいはあるだろう。たっぷり30分くらいは並んでいた。

荷物をピックアップしゲートを出ても、相変わらず人が多い。日本人の出張者を待つ何十人もの人々が【会社様】といったカードを持って立っている。日本-メキシコ二国間貿易協定の影響なのかなあ。

メキシコシティのメトロ

メキシコシティに到着するのが夜になってしまう場合、貧乏旅行者は空港で夜をあかすことが多い。メキシコシティはメトロが発達しているが、とても危ないらしい。

普通そんな場合には、やむなくタクシーを使うところだが、メキシコシティの場合、夜のタクシーはもっと危ないと聞く。運転手が何時の間にか強盗に変身しているそうだ。

そんな悪質タクシーに乗る確率は極わずかだろうが、根こそぎやられて時には命も危ないタクシーよりは、メトロの集団スリの方が、皮肉にも私の場合“**慣れている**”のでメトロに乗る事にした。

メトロの駅に行く途中、「今何時だい？」と中年の男がスペイン語で聞いてきた(たぶん)。

「ああ、お前はスペイン人じゃあないんだ」と英語で言って追い抜いていったが、行き先は彼もメトロで、追いついてきた私にチケットの売り場を教えてくれた。

このチケット売り場のオネーさんが私にはチケットを売ってくれない。空港でキャッシングした500ペソ札(5000円)しか持っていなかったのだ。釣が無いって事らしい。

がしかし、駅の売店はもう閉店していた。1枚のチケットさえ買う事が出来ないで困っていると、一旦改札に向かっていて彼がわざわざ戻ってきて、そして「アミーゴだから」とチケット代を出してくれた。

因みにメキシコのメトロは、何時間乗っても、何度乗り換えても、一回も地下鉄からでなければ2ペソ(20円)である。

旅をしていると、このケースの様に現地の人と親切に触れる事がある。そんな事がある度に、その国の印象がとても良くなるのだった。こういう心温まるところが旅の良い部分だなあ。



文盲率が低くない為か、地下鉄の駅ごとに絵が付いている。地下鉄は庶民の足で、日本並みに混んでいる。

彼とは途中まで方向が同じらしく、また英語も通じたので、メトロの中で色々な話をした。

「メキシコ人かと思って声を掛けてしまったんだ」と彼。

「俺がメキシコ人...???」それってどういう意味なんだろう。

イケ面のメキシコ俳優を想像してみたが、生憎一人も知らない。ついつい「ドン・タコス」が頭に浮かんで来たが、それは彼の方が似ているんじゃないかと思うんだけど...

彼は、メキシコ南部で学校の先生をしていて、教育現場の調査の為にメキシコ北部に行っていて、メキシコシティはその帰りの乗り換えという話だった。

何と、今朝タクシーに乗ったがタクシー強盗にあってしまった、という。洋服も飛行機のチケットも何もかも取られてしまったらしい。

タクシーには気を付けるようになりかなり強くアドバイスを受けた。夜だけじゃないんだ...

その後もいろいろと話をし、メールアドレスも交換した。

で、別れ際になると、彼は実に躊躇しながらもお金を貸して欲しいと言う。

飛行機には乗れないので、家までの長距離バスで帰ると言う。そのバス代の一部 200 ペソ(2000 円))を借りたい、ドルに換算して郵送で返すから、というものだった。

巧妙なサギか、出来心か、本当に金を借りたいのか良く分からない。そして彼は私が 500 ペソを持っている事を知っている。

結局、貧乏旅行でぎりぎりしか持ち合わせが無いので、と断ってしまった。

実際には 200 ペソ程度なら、親切にしてもらったお礼と人助けの為に貸してあげてもいいかと思っただが、返ってこなかった場合の裏切られた気持ちが先に立ってやめてしまった。

こういう疑心暗鬼になってしまうところが旅の嫌な部分だなあ。

メキシコシティは、緯度で言うと香港辺りだったと思うが、標高は 2,240 メートルなので、さすがに涼しい。何とかたどり着いた宿の私の部屋は 3 階だ。外でコオロギの様な虫が鳴いているのがそこまで聞こえる。

4~5 月の気温は 15 くらいだろうか。まるで日本の秋である。

荷物を持って 3 階まで上がると、何か、動悸というか、息切れがする。心拍数を計ると 124 もある。これは軽いジョギング並みだ。高地だからかなあ。

メキシコのウォールマート

宿の近くにスーパーがあるというので行ってみた。ウォールマートだった。

知ってはいたが、店に入るのは初めてだ。Everyday Low Price なのかどうかチェックする為、お店を練り歩いた。

メキシコのウォールマートは、肉については豚も鳥も、日本の 2 分の 1 程度。野菜や果物は 2 分の 1 から 4 分の 1。卵は日本と同じくらい、衣料品もほとんど同じ、電気製品は日本より高い、という具合。

アルゼンチンやチリに比べると少し物価が高い。肝心のビールは、相変わらず南米タイプの 970ml ビン。1 本 12 ペソ(120 円)程度で安い、メキシコでは瓶のデポジットを 8 ペソ(80 円)も取られる。

日本にも輸出されているコロナビール(325ml)は、6 本で 24.3 ペソ(243 円)で、デポジットは 16.2 ペソ(162 円)である。デポジットがあったとしてもまだ安い。日本に輸出されると、異常に高くなるのが残念だ。

因みにメキシコでは、こんな風にビールのデポジットが高いせいか、『うちで買ったビールじゃないと、空瓶は受け取らないよ』という店が多い。つまり買った時のレシートを持ってないとビン代を返してくれないのだった。結構めんどくさい国だ。



巨大スーパーウォールマート。さすが首都だけあっていろんなものが置いてある。キューバとは大違い。

めんどくさいと言えども一つ。

メキシコでは、法律で『おそとでビールを飲んじゃいけません』というのがある。もちろんレストランのテラスなんかはOKなのだが、公園でタコスを食べながら一杯、なんて至極の時を過ごす事はいけないらしい。

それどころか、栓の開いたビールピンを外で持っていると言警察に捕まって罰金を食らうらしい。スーパーの袋に入れればOKなのだが、そういった事がやけにうっとおしい国なのであった。因みに、あまり酔っ払っていると、公共機関の利用も拒絶されるらしいが、私の場合は問題なかった。

ビールと言えれば次はワインだが、メキシコではチリやアルゼンチンほどメジャーじゃなかった。メキシコでも作っているらしいのだが、あまり多くは売ってない。売っているのは、チリやアルゼンチン、スペインといったところ。この国はやっぱりテキーラなのかなあ。

話がそれた。ウォールマートにもどる。

このウォールマート、圧倒的な集客力があるみたい。午前中から店内はとても込み合っていて、大きな駐車場は満車で順番待ちの列が出来ている。

メキシコの庶民は、それほど金持ちと思えないが、何でこんなに買うの、というほど巨大なカーゴにテナコ盛りで商品を入れてレジに並んでいる。レジも20以上あるのだが、人が多いのと、買う量が半端じゃないので結構待たされる。

このあたりの小売り店や小さいスーパーなど完全に席捲しているようだ。

メキシコはかつて、産業を大幅に外資に開放していて、土地などは国土の20%弱を外国資本に所有されてしまったという歴史がある。その土地の資源も、その土地の所有者のものと定められていたので、必然的に外国資本が天然資源さえも押さえてしまう事になる。結果として外国資本がメキシコの経済を支配下においていたというのが19世紀の後半だ。

その後、革命もあり、今ではそのようなことはないのだが、このウォールマートを見ていると、何だか歴史は繰り返す、みたいな事を感じるのは行き過ぎだろうか。

NAFTAの締結でも、アメリカは半永久的に安い労働力を手に入れた、と言う人が少なくないが、属国みたいな事にならなきゃいいけど...

そうそう、このウォールマートには、当然の様にマックがテナントとして入っている。ハンバーガーは10ペソ(100円)。頼んだのはハンバーガーだけど、包みを開けてみるとチーズが挟んであった。メニューを見ると、チーズバーガーも、同じ10ペソの様だ。

さすがメキシコだけに辛いソースが別に付いてくる。

大きさは普通。味は美味しくない。パンは普通だが肉が美味しくないのだ。屋台で食べるタコスも10ペソ程度なので、なんだか損した気分。

タコス

そのタコスである。メキシコといえば、サボテン、テキーラ、プロレス、タバスコと並んで有名なのがタコス。

15年前にシンガポールへ行った時、今はなきヤオハンの地下のフードコーナーにタコスを出す店があって、そこで食べた何とかタコスは実にうまかったのを覚えている。あまり安くなかったがすごく丁寧に作っていて、土台となるトルティージャも春巻きくらい大きいものだった。

一方本場メキシコのタコス。屋台では餃子の皮の大きさぐらいのトルティージャに、肉の煮たのと野菜をさっと挟んで出来上がり。あっという間の10秒。

記憶にあったタコスとはえらい違いだなあと思いつつ食べてみると、味も違った。どうもヤオハンだった為か、日本風になっていたみたいだ。

泊っている宿の近くには通り沿いに露天がたくさん出ていて、タコスを出す店も10件近くある。

一番安いところで、4つで10ペソ(100円)。店によっては具が違い、当然味も違うので食べ歩きが面白い。メキシコ人は、どうもスナック感覚で食べているようで、食事という位置づけではないらしい。貧乏旅行者にとってはこういう屋台がとても有り難く、いつも2、3軒でタコスを食べる。

タコス自体もうまいが、付け合わせとして出てくるセボジータがまた美味い。これは長ネギと小玉ねぎを足して2で割ったような根菜類で、露店のタコス屋では柔らかく煮てあった。塩を振って食べると甘みのある上品な味がした。何だか、すき焼きに入れたら凄く美味い気がする。



タコスの具を火に通している所。付け合わせのセボジータが実に美味い。

メルカド(マーケット)

メキシコシティには幾つかの大きなメルカドがあるそうだが、有名なところに行ってみた。

地下鉄の駅の名前からして“Merced”。

改札を出るともう市場だった。

まずは食堂。露店以上に活気があって、客引きもすごい。ここでもタコスの長いやつ(たぶん名前はちゃんとあるんだと思う)を2つ注文。1つ10ペソ(100円)。2つで腹が膨れる。

駅の建物を出ると、次の建物もメルカドだ。こちらは食肉を扱っている。豚の首が台に幾つも乗っている。

チリのメルカドも凄かったが、やはりメキシコシティは人口が多い。メルカド全体の面積も出店数も、お客の数も、さらに大きいようで、かつ熱気が凄い。

野菜、香辛料、文房具、金物、プラスチック製品、電器製品、自転車などなどなど。その脇に食べ物の出店が無数にある。もう売っていないものはないんじゃないかという感じ。



マーケットの中のタコス屋。トルティーヤが楕円形になっていて日本人には珍しいかも。

一ヶ所、凄い雰囲気を通りがあった。狭い通りの歩道に、女性達がケバイ格好で立っている。それを取り巻くたくさんの男達。女性は一人ずつ、その男達が群れているところを流し目で歩いていく。まるでパドックを歩く馬の様。

その様子を固唾を飲んで見ている男達。最初は何かの撮影をしているのかと思った。真っ昼間ながらももしかするとあは、女性を売っているのではないかと邪推してしまった。

実は、何故か妙にその女性がオカマっぽいのだった。もしかすると、男性を売っているのかもしれない…。ちょっと怖い。

(さすがに異様な雰囲気で、写真は載せられない)

メキシコシティは、他のメキシコの都市よりも物価が高いそうだ。

そんな訳で、タコスを始め露店や屋台で食事を取る機会が多い。

公園などに行くと、小学生からおばあちゃんまで、いろんな店で働いている。

数年前までは、メキシコシティといえば、“ストリートチルドレン”だったそうだ。そんなテーマの本をだいぶ昔に読んだ事がある。

ただ、実際に来てみるとストリートには子供をあまり見かけなかった。政府がきちんと対応し始めたのかもしれない。その分『子供が屋台で働く風景』を目にする事が多い気がする。因みに、それさえキューバではほとんど見なかった



マンゴーむきのおばあちゃん。さすがプロだけあって、むくスピードも、仕上がりも素晴らしい。

メキシコの乗り物

地下鉄の事は既にも書いたが、それにしても平日の昼でもメキシコシティの地下鉄はやけに混んでいる。

でも日本の様に満員の所へ、さらに押しくらまんじゅうをして乗り込む事はさすがにないみたいだ。のんびりと次の電車を待つ人が多い。回りが皆そうなので、よそ者の私だけが日本風にガンガン乗り込む訳に行かない。そう思っていると、2台もやり過ごしてしまった。

その割に、実際に乗ってみると電車の中はドア付近だけが混んでいて、中は普通なのだった。

メキシコのタクシーは実に特徴がある。車がフォルクスワーゲンなのだ。例のカブトムシ。

メキシコシティでは本当にこのカブトムシがたくさん走っている。何でも世界で最後までこのタイプを生産していたのがメキシコだそうだ。実際に色



街にはフォルクスワーゲンが多い。残念ながら数年前に生産停止になったらしい。10年前は街にあふれていたそうだ。

とりどりのカブトムシが走っている。因みにタクシーは緑のカブトムシ。時々大通りで、視野に入る緑のカブトムシが30台くらいあってびっくりする。

怪しいボクサー

旅をしていると、『危ない目にあった事は?』とよく聞かれる。これまでのところ、スリには遭ったがそういう輩には出くわさなかった。

しかし、メキシコシティで捕まってしまったのだ。

市場を探して迷っていると、どこからか近づいてきた小柄な男。

「何をしているんだ。ああ市場ならこっちだよ、俺も近くまで行くんだ」

なんて事を英語で言われると、ついついついていってしまう私。

「おまえ、体でかいな。何をやっていたんだ? おれは昔ボクサーだったんだ。具志堅は素晴らしいかった」

と、その辺の建物の壁にバチバチとパンチを入れる。

おやっ、こいつおかしい...、と思った瞬間、今まで明かった路地から全く人気のない、ビルの狭間の暗がり到着していた。

おもむろにリップクリームを何故か取り出す彼。そして何故か私の靴に一筋塗る。で、曰く

「これが俺の仕事なんだ。1ドルくれよ」と凄む彼。

しかし、ここからがへなちょこで、「ドルは持ってないよ」「じゃあペソでいいよ」「いや到着したばかりだから円しかないよ」「じゃあ1円くれよ」「1円は110ドルだから、そんな大金あげられないよ」「じゃあ、その胸に挿しているボールペンくれよ」「これは使っているからだめさ」というひょうきんな会話を延々として、そいつは結局あきらめていったのだった。

その前の「おおっ、君はボクサーなのか、日本でもメジャーなスポーツだけど、やっぱり俺達は空手なんだなあ」という言葉が効いていたみたいだ。

日本の貧乏旅行者は、常にブラックベルトという事になっている。何か怪しい雰囲気になるとみんながそれを言うので、多分外国の人は、結構信じてしまっているんじゃないかなあ。

一説によると、南米では特に、『カラテ』という響きが効くらしい。

こういう時の為に、20ドルと少しの現地通貨はいつもポケットに入れて備えているのだが、今回は使わずに済んだ。

実はそれどころか、その連れ込まれた路地で、キューバ行のチケットを最も安く売る代理店を見つけたのだった。おおっ、得した。

国立人類学博物館

国立人類学博物館というのがメキシコシティにある。こういう分野が好きな人は、この博物館を絶賛するらしい。

38ペソ(380円)の入場料を払って入ってみると、幾つかの小ホールに別れているようで、どこがどこかわからない。パンフレットもくれなかった。ザッツメキシコってな感じ。

取りあえず正面から入ってみる。別段、興味がある訳ではないので全く感動が無い。歩き疲れ損みたいなどころがあるが、一ヶ所だけよかったのは、メキシコが『湖に浮かぶ都市』と言われていた意味が分かったこと。

その絵が展示されていたのだった(スペインが侵略後に埋め立ててしまったそうだが)。

土曜日のせいか家族連れが多い。子供は熱心にメモを取っている。

子供に屈ませて、親が子供の背中を台にしてメモを取っている姿も何人も見た。メキシコ人、面白いなあ。

博物館には結局1時間半ほどいた。好きな人は1日でも見たりないのだそうだが、私の場合、こんなもんだ。省略してもよかったぐらい。どうも人とは感性が違うようだ。

ただ、博物館がある公園には、何かの木に紫色のきれいな花が付いていた。紫の桜の様でとてもきれい。

つづく



湖上都市メキシコシティと聞いていたが、この絵でようやくイメージが湧いた。埋め立てなきゃよかったのに。



桜の木の様に花を付けている木。ただし花はきれいな紫で、なんとなく不思議な感じがする。